

■【トピックス】
マイナス金利導入！



日本の中央銀行である日本銀行が1月の金融政策決定会合において僅差の多数決によりマイナス金利の導入を決定しました。前日に甘利大臣の辞任会見があり、金融市場に大きな影響が出るのが懸念される中でこの発表でした。

マイナス金利の影響が懸念されていますが、そもそも資本主義はプラスの金利により成り立っています。今後は、これまで通りの資本主義が通用しない時代になるかもしれません。

■【ビジネス・アイ】
自己株式の消却！

社長 「今年、年の初めからいろいろなことが起きているね。株価も下がるし、先の受注が見通せないよ」

花野 「世界経済もそうですが、国内も景気に不安がありますね」

社長 「そうだね。そこで少しでも節税につながるものがあれば、早めに手を打っておきたいんだよね。何かあるかな？」

花野 「そうですね。そういえば御社には自己株式がありましたね。少し費用は掛かりますが、消却しませんか？」

社長 「確かに、前に会社を買わせた自己株式があるけど、節税と何か関係するの？」

花野 「地方税に均等割額という赤字でもかかる税金があるんですが、その計算方法が変わって、自己株式をそのままにしておくと増税になる場合があるんですよ。当面、誰かに売る予定がないのであれば、御社の場合、消却(減資)した方が税金が安くなりますね」

社長 「そうなんだ。でもそれって簡単にできることなの？」

花野 「会社法に従った厳格な手続きがありますが、その前に会社に十分な剰余金(分配可能額)があることが前提になります。現在の御社の財務内容であれば問題ありませんよ」

社長 「そうなら当社でも検討してみるよ」

花野 「是非、ご検討ください」

■【今月のキーワード】
資本金等の額

「資本金等の額」とは、資本金と資本積立金の合計金額のことをいいます。資本積立金は、貸借対照表の純資産部の資本準備金に税務上の調整を加えた金額になります。自己株式を取得した場合には、自己株式の取得金額のうちみなし配当以外の金額については、「資本金等の額」から減額されます。そのため、自己株式があると、貸借対照表上の資本金と資本準備金の合計額と「資本金等の額」が異なることとなります。なお、「資本金等の額」は法人税申告書別表で確認することができます。

■【今月の1冊】

『誰も教えてくれなかった実地棚卸の実務Q&A』

國村年 松井大輔 大野貴史 著
中央経済社 ¥2600

在庫の棚卸の重要性を本当に理解している経営者は少ないです。決算のためだけでなく、納期管理、生産管理のためにも必須です。

しかし、そんな重要な棚卸ですが、正しい棚卸の方法を理解している企業があまりありません。効率的に、かつ正確に棚卸を行うには、どのようにすればいいのか。そのノウハウを提供してくれる1冊です。



■【編集後記】

暖かくなり今年もまた花粉との闘いが始まりました。この闘いは症状の出始めた最初が一番つらいですね。症状が出始めたらいつもの鼻炎薬を飲み始めるとともにマスクを着用して防備します。そして飲みに行く回数を減らします(^^)

『経営のセカンド・オピニオン』vol.108 (毎月1日発行)

●定価：2,400円/年 ●発行日：2016.3.1 ●発行人：花野康成

●編集・発行：有限会社ビジネス・インスパイア

〒460-0003 名古屋市中区錦3丁目1番30号錦マルエムビル5F

TEL.052-205-6361 FAX.052-204-8808

<http://homepage3.nifty.com/binspire/>